

連盟ニュース

298

神奈川 11

2009.11.10

『秋の燧ヶ岳』(尾瀬ヶ原にて) 撮影：トリコシアキオ(<http://tory.com/>)

いま新潟県十日町市池谷を思い起こして	中山建生	2	
2009年度雪崩机上学習のお知らせ/遭対部便り		3	
会主催クリーンハイク 恒例の金時山C H 小田原ナーゲル山の会	中島健一	4	
柴笛祭	川崎柴笛クラブ	雪竹雅士	5
2009年下期定期理事会報告		6	
第8回全国救助隊交流集会 参加の報告	救助隊	海輪利昭	7
鳥越章夫写真展 12/2-7		8	
ハイキング委員会報告/八ヶ岳山行感想文 藤沢山の会	野口るり子	9	
2009年度ハイキングリーダー養成学校を終えて	中山建生	10	
平成21年度 関東ブロック自然保護交流集会報告	大用ユキ子	11	
第21回全国海外登山集会案内(千葉)11/28(土)~11/29(日)		11	
自然保護委員会報告 8/ 事務局長会議報告		10	
神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定		12	
県連のスケジュール/全国会議行事予定		14	



神奈川県勤労者山岳連盟

〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1-18-2 永田ビル3階

TEL/FAX 045-434-2726 <http://www.k-rouzhan.net/>

発行責任者 後藤 真一

振込先 郵便局 世界貿易センター内局 #00290-9-15228

他金融機関からは 029店 当座0015228

いま新潟県十日町市池谷を思い起こして

2009.10.20 中山建生

「中越大震災から5年」との中見出しに見知った顔があり、もう稲を刈取り収穫を得たのだろうかとの新聞の記事を見なおした。池谷集落は冬になるとどこも深い雪で埋まってしまふ。今年の1月は思いもかけない小雪で屋根の雪下ろしもしなくてすむというほっとしたような、淋しいような顔を思い出した。今年で3回目屋根雪下ろしでローブをうまく使えないか、安全を高めることはできないかと現地に出掛けたことから池谷とのつながりが生まれた。

雪国での生活は私たちの想像をはるかに越えて、登山やスキーで楽しむものたちには理屈では理解しても体で感ずることは難しい。若い人達は米づくりでは生活できず、都市に出掛けることになる。日本の農業は今日ではアメリカの余剰生産物や海外からの安い果物と野菜に押し捲られ自給率が半分にも満たない。こうした中での中越大地震であった。私ならとうの昔にこの集落を離れてしまっただろうと思う。ここに生きる人達の顔には明るさが、したたかさがある。困難はあっても私たちよりずっと健康的な毎日を送っているのだろう。

今年参加した人達は池谷に自分の故郷を見いだしていた。都会の生活からは得られない自然の持ついやしのエネルギーを体が受けとめている。だから都会での隙のないイライラした表情や忙しい動きが見られない。

思うことは都会から自然を見るだけでなくもう一步踏み込み一緒に歩むことができないかどうかをずっと考えてきた。いつも新潟までは行けないにしても近くでの里山づくり、川の水をきれいにする、ごみのない町や村づくりをする中で地域の人達との生きたつながりを持ちたいと思う。10月を過ぎると私は雪山での雪崩事故防止のための教育活動に入る。登山やスキーだけでなく、仕事をする人達の、生活をする人達の安全をも守りたいと思う。私のわずかな力が役に立つならどこにでも行きたいと思う。今年の冬は参加する人達に雪の中での遊びのおもしろさ、時には恐さを体験してもらうつもりで準備をしている。何年も雪崩のことを教えてきたが雪下ろしや雪堀は今だにうまくない。むしろ下手である。私より年上の人達が屋根の上に真っすぐたち、ひょいひょいと雪をブロックにして下ろしていく。都会から来た人達ははしごもうまく登れないし、屋根のうえにも真っすぐに立てない。こんなことでは私たちは雪国で生活することは難しい。それでも田舎と都会の生活に垣根を置くのではなく行き来が出来る関係を求めている。10月20日新聞赤旗は「被災地はいま」を載せ、私の目に飛び込んできた。10月23日長岡市を始めとして亡くなった人達を忍んで慰霊祭が開かれた。夜のテレビは沈んだ気持ちにさせた。一時を過ぎると何事もなく忘れてしまう私たちは同じ日本に住みながらなんと冷ややかな自分をやるせない思いにした。来年の一月には何人かの仲間を連れて池谷に行くつもりである。

池谷の棚田で育った「山清水米」の購入は震災復興・材おこし、集落の存続のための活動資金(売り上げの一部)となります。ご協力をお願いします。

連絡先 新潟県「十日町市地域おこし実行委員会」代表山本 ☎080 - 1078 - 3660

お申し込み先は ☎025 - 757 - 6403 F

遭対部便り 2009年11月

いよいよ11月に入り、冬山も目前に迫ってきました。今年は寒暖差が激しく、すでに雪が降った山もあります。雪までゆかなくとも山では予想外に寒くなることがありますので、油断をせず、気をつけてください。

さて遭難対策部の主催ではありませんが、雪崩事故防止のための机上学習が行われます。冬山に入られる方は是非とも参加してください。講師は8月のビーコン講習会でも講師を勤められた中山さんです。

実技は関東ブロック主催による関東ブロック雪崩学校になりますが、実技に参加されたい方は机上への参加が必須ですので、必ず受講してください。

それと毎年2月に実施しているファーストエイド講習会(救急法)ですが、今年は諸般の事情により1月末(31日)の日曜日になりました。普段は使わない技術ですが、万が一の時は必須の技術であり、また実際に使えるようになるには繰り返し練習することが必要ですので、こちらも是非ご参加ください。

以上

2009年度雪崩机上学習のお知らせ

主催 神奈川県勤労者山岳連盟

本講習会は神奈川県連の会員と雪崩に関心を持つ人達のために開校されます。また日本勤労者山岳連盟関東ブロックの野外実習の一貫としての学習会ともなります。

近年山岳での雪崩事故の特徴は、過去の雪崩発生を調べていないこと、これは単に場所の確認ではなく天候の推移や寒気の南下、積雪量の増加、地形など、つまり雪崩発生の要因を知ることなしに登山をしていることに事故の原因があります。また雪崩の危険を感じていてもこれを回避する術を学ばずに、雪崩の走路となる場所にテントを設営する、漫然と谷筋を登るといふ行為が繰り返されています。今は雪崩事故から教訓を学ぼうとすれば容易にできることです。そして万一の事態に備えるためには雪崩ビーコン、ショベル、プローブを持つことで生存救出の可能性を大にします。しかし、これらを持たずに雪上訓練をしたり、雪山に入る人達があります。そして事故を起こしています。雪崩のことを学び、現場での危険判断をすることで事故を回避することはできるのです。登山者や滑降をする人達には雪崩の理論はとても難しくとりつきにくいものと感じています。しかし、雪山に入ろうとするなら雪崩のことを学び、観察と判断が出来るように自らがこれに取り組まなくてはなりません。理論そのものは難しくはありません。難しいのは学習した内容を現場で応用することです。これも半分は繰り返しと慣れですから今年から取り組んでみましょう。

日時 12月17日(木) 19時30分より(21時30分までの予定)

場所 神奈川県立 かながわ労働プラザ (JR根岸線 石川町駅北口より徒歩3分)

内容 雪崩発生の原因と対策

情報 最新の雪崩ビーコンの特徴

参加費 2,000円 テキスト代を含む

講師 中山 健生 (社)日本雪氷学会雪崩分科会

主催 神奈川県勤労者山岳連盟

申し込み方法

下記の内容を記載して

メール: kanagawakenren@gmail.com または FAX: 050-3488-3765

に送ってください。どちらの場合も、件名には「雪崩学習申し込み」と記載してください。

氏名 所属会(労山に所属していない方は“無所属”と記載してください)

連絡先(メール・電話番号)

講習会で聞きたいこと・学びたいこと

以上

09年会主催クリーンハイク

恒例の金時山クリーンハイクを実施

小田原ナーゲル山の会

コース

地藏堂(9:15)～夕日の滝分岐(9:35)～東屋(10:00)～丸鉢山(12:10)～金時山(12:45-13:40)～足柄峠駐車場分岐(14:30)～地藏堂(15:40)

10月18日(日)、小田原ナーゲル山の会恒例の金時山クリーンハイクを実施した。昨年も金時山クリーンハイクを実施しましたが、終了後の運営委での反省点として一般参加者を増やす努力をしていくことに重点をおいて今年は取り組みました。

今回はローカル紙の「湘南いどばたかいぎ」小田原・足柄版を利用して一般参加者を集め、11日の締め切り日までに16名の参加者があり宣伝の重要性を痛感しました。最年少は9才から70才までの方に参加表明を頂いたが、当日までに4名の方が参加できなかった。

関本バス停から地藏堂まではバスも満員状態で大変でした。地藏堂に到着、トイレタイム後、SLの司会、CLのコースの紹介、注意事項、参加者の自己紹介を行う。遭対担当のNさんによる準備体操を行い9時15分にSLを先頭に歩き出す。

一般参加者の足並みが解らないのでゆっくりペースで進む。夕日の滝分岐を過ぎ、東屋で休憩、ここまでは全員順調、ゴミも無い。沢を慎重に渡り本格的な登山になる。二度目の休憩で1人の女性がバテ気味である。2～3人でサポートしながら丸鉢山を過ぎて林道に出る。ここで2名の一般参加者を足柄峠のバス停までYさんがサポート役を買って来てくれ下山して貰った。

いよいよ最後の急斜面を12あるハシゴを登っていく。下るハイカーも多くお互いに譲り合いながらして12時45分、金時山山頂に到着した。山頂は他のハイカーで満杯で場所を確保できず少し下った林の中に場所を確保した。予定した計画より遅れていたの先に昼食タイムをとる。

山頂で2名の会友と合流、先発隊の4名が鍋二つに大量の豚汁を作ってくれていて一般参加者の皆さんにも喜んで貰い、短時間で完食してしまう。食後、三々五々、山頂付近を中心にクリーンハイクを実施したが、今日はボーイスカウトの子供達もクリーンハイクを実施していてゴミは少なかったが、一升瓶、缶、ペットボトル、ビニールなど10キロ近いゴミを収集した。

13時30分、クリーンハイクを終了し、金時山の標識の前で参加者全員で記念写真を撮り、下山を開始した。

地藏堂に到着後、参加者全員でクリーンハイクの感想を出して貰い楽しくクリーンハイクが出来たことや事故もなく終了したことに感謝して解散した。

報告・
小田原ナーゲル山の会 中島健一



柴笛際

川崎柴笛クラブ
雪竹雅士

日程 2009年10月24日(土)
10月25日(日)

参加者 17名

川崎柴笛クラブでは毎年10月に柴笛際を開催しています。会員の親睦を深めることが主な目的ですが、会員以外にも会友(元会員や元会員の家族など)、会員の家族、会と縁のある方等、なかなか会う機会がない方と親睦を深めることにもいちやく買っています。

柴笛際は、キャンプ場で土曜日の夜から開催されます。キャンプ場は、駅に近いので仕事が終わってから参加される方や、一泊せずに帰宅する方にも便利なため、近年、奥多摩駅近くの氷川キャンプ場を利用しています。山岳会らしく土曜日の昼間には山行も計画されます。今年はハイキングと岩トレが計画されました。ハイキングは御岳山、岩トレは冬山に向けて越沢バットレスでアイゼントレーニングが計画され、それぞれ満足の行く内容だったようです。山行が終了すると、キャンプ場に集まり、料理を準備します。最近は料理好きの会員が腕をふるい、豪華な料理が楽しめます。今年は、ブルコギ、水餃子、ピヤベース、チヂミ、炊き込み御飯等の料理が並びました。恒例の料理として会員が取ってきたきのこで作るきのこ鍋も好評です。柴笛際での楽しみの一つに柴笛オークションがあります。新しいもの買い換えたりしてあまり使わなくなった山道具がオークションにかけられ、入会したての新人会員が安く(市価の1/10程度!)山道具をそろえることができ好評です。

今年も沢山の会員が参加し、飲む人も飲まない人も、薪を囲いながら、日ごろの山行、今後の目標、会の運営等について夜な夜な語り合い、有意義な一夜を過ごしました。



2009年下期理事会報告

9月13日13:00～ かながわ県民サポートセンターにて

資格審査：定数25、過半数13 出席18にて成立
議長：中山 副議長：渡辺 書記：田村
資格審査：高橋 選挙管理：蝦名

後藤理事長挨拶

99%の登山者が未組織登山者であることを認識し、開かれた登山を目指そう！

会員の声に応えた活動、次世代につながる活動をして行こう。

新日本スポーツ連盟石川理事長様挨拶

新スポーツ連盟は登山とともに40周年を迎えました。

新スポーツ連盟の理念は、「人間として豊かな生活をするために発展させてきたスポーツで社会的貢献を行う」です。

お願い

旧県立川崎高等職業技術校の跡地利用に関し、署名活動を行う予定ですので、その際は協力をお願いいたします。

各部報告

事務局

組織

ホームページに入会の説明を追加

会員数は現在660名。ピーク時の750名（2004年）に対して90名減。全国的に現象方向にある。会自体の脱退、解散が多い。

財政

収支報告。

支払いは送らないようにお願いします。

遭難対策部

今後の活動検討のために、各会にアンケートを依頼。一部の会からは提出がない。

実施済み講習会の報告。

救助隊

運営会、救助隊総会への参加が少ない（いつも決まったメンバ）

メーリングリストの遅配による連絡の不都合があった。

クリーンハイクスタッフへの交通費支給を検討して欲しい

（クリーンハイクは参加者全員がボランティアとして参加しているが、スタッフは早朝（場合によっては前日）から夜までと負担が大きいので、交通費ぐらいは支給できないか？）

質疑

メーリングリストの信頼性をあげたいなら、動作保証された有料のものが500円くらいからある（現在は個人が運営しているものを使用）

関東ブロック他県からの連盟ニュースを、PDFファイルでもらうなどして各会に配信することは出来ないか？

- > 要望は出しているが、出来ない県もある。紙で受け取った際の対応方法を検討します。

積立金（非常時用）はいくらぐらいの金額が妥当か？（県連財政部からの問いかけ）

- > 今までの事故発生時の経験からすると10万円くらいと思われる。

クリーンハイキングの交通費についての意見

財政（クリーンハイキングとしての収支）を検討する。

他のイベントに関してもスタッフの交通費の扱いに関しては認める必要がある。

クリーンハイキングはボランティアという認識があるので、その辺の特殊性もある。

ハイキング委員会

ハイキングリーダー学校にてヒヤリハットがあった

自然保護委員会

丹沢大山クリンピア21には各会が独自に参加した

（クリンピア21にはクリーンハイキングの報告もしており、予算ももらっている）

教育部

「自分自身で作る登山」となるようし向けている。

質疑

ハイキングリーダー学校で読図を複数行っている理由は？

- > 読図は1回で身に付くものではないので、復習をしている。地図を読むことを習慣づけないと、付いて行くだけの登山になってしまう。

全国遭難対策部として、情報共有のための各会が使っているテキストを分けて欲しい（全国遭難対策部員の鳥越さんより）

ハイキングリーダー学校受講生の人数が多いのはどうしてか？

- > 2年、3年目のリピーターが多いため

ハイキングリーダー学校で起きたヒヤリハットは事故と見なすべきではないか？

- > 起きた内容的には事故ととらえるべきだと思う
会の活動内容や、会員のレベルによっても変わる。
ヒヤリハットも事故も変わりはない。どちらも事例として公表し、事故防止に役立てるべき。

ハイキング会の会員の要望が変わってきている。沢に行ったり、ガイドと岩登りをしたり、冬山トレッキングをしたりするようになってきた。

その他の提案、意見

(田村) 神奈川では県連の運営が常任理事のみに任されており、理事には県連を運営する自覚がない。常任理事だけでは出来ることは限ら

れており、県連の力が落ちてきている。
(後藤) 理事の役割が理解されていない。「専門部の部員 = 理事」という誤った認識がある。
(蝦名) 規約でも、県連組織の仕組みや役割が不明確

(田村) 各会の事情を考慮した運営方法の検討も必要。労山に属しているにも関わらず県連の活動に関わっていない会に関してはペナルティも考えないと不公平が生じる。一方、県連としても各会が参加しやすくなるような工夫も必要。また来たくても来られない会に対しては、来られるような仕組みも考えるべき。各会からも意見を出して欲しい。

事務局長の人選に関して(現状不在)

具体的な候補者は無し
新たな人材を見つける

現理事の中から異動してもらう。

事務局長がいなくても良いような仕組みを考える

以上

第8回全国救助隊交流集会 参加の報告

救助隊 海輪 利昭

開催月日 10月31日 11月1日

開催場所 富山県・国立登山研修所

参加者 後藤理事長、鳥越全国遭対部員、海輪

2年に一度開催されている第8回全国救助隊交流集会に参加しました。

関東ブロックでは毎年、共同での訓練を開催していますので他の都県の様子はわかりますが、地方の実態がわからず、情報交換を楽しみました。

午後1時に開催され、挨拶やオリエンテーション後に恵先生の記念講演で始まりました。

恵先生については神奈川でも講習をしていただいたこともあり、ご存知の方が多いことと思います。「搬送前の処置・山での救急法」として心肺蘇生、寒冷からの保護、創傷の処置、登山における有用な救急用具について講演され、当救助隊ではレスキュー技術の訓練ばかりに傾注しファーストエイドへの取り組みが少なかったことを反省しました。

続いて各連盟の自己紹介、事故事例の報告があり、初日の講演が終了し交流会へ・・・

皆さんがご存知の門脇さんと久しぶりにお会いしました。

神奈川にいる時には救助隊の副隊長として活躍され、私も技術的なこと以外に考え方などを学び、人としても尊敬していました。

今では兵庫県連の理事長と所属会の会長を兼務さ

れ、多忙な日々を送っているようです。
今後のご活躍を祈ります。

さて、2日目は屋内壁を使用した全国本部によるデモンストレーションで始まりました。

救助作業中のバックアップシステムでモバイルフォールレスターと云うアッセンダーを使用したもので、埼玉県連の今井さんのスムーズな動きを久しぶりに拝見しました。

続いて兵庫県連の「懸垂降下時からの登り返し方法」、東京都連の「シート梱包」(これは神奈川でも昨年から試験的におこなっていますが、スケッドを使用する場合はノーマルな梱包法となると思いますが)をデモンストレーションし、次は屋外の高さ15m程のピナクルを使用して大阪県連と兵庫県連が斜張りで負傷者を引き下ろすデモンストレーションをおこない終了しました。

最後に井芹遭対部長から「今年発生した死亡事故は14件で行方不明1件、それも第2弾の緊急事態宣言後に3件の死亡事故が発生している。」旨の話があり、救助活動の手前にある遭難対策に取り組むことの大切さを再認識しました。

以上

お詫び

鳥越氏より写真が送られてきましたが、ADSLの不具合によりダウンロードできませんでした。

- 青い時間 -

- A blue moment. -

Photographed by Akiu Torkuubi. - <http://tory.com/> -<http://tory.com/>

トリコシ アキオ

鳥越章夫・写真展 ～ 光画風景Ⅰ～

- デジタルプリントで描く心象風景の世界 -

2009年12月2日(水)～7日(月)

am10:00 - pm7:00 (※最終日pm6:00まで) (※入場無料※)

●かなつくホール・ギャラリーB●

〒221-0044 横浜市神奈川区東神奈川1-10-1 (045-440-1211)



自然保護委員会報告

2009.9.28

出席者 高橋・萩原(藤沢山の会)、磯部(地平線の会)、大用(川崎HC)、大日方(横浜AC)、宮原・伊藤・関根(横浜HC)、三上(横浜こぶしの会)

クリーンハイク報告集 一般参加・他への送付について

自然保護委員会関東ブロック・全国大会への案内 及び参加要請

2009.10.26

出席者 高橋・萩原(藤沢山の会)、磯部(地平線の会)、大用(川崎HC)、大日方(横浜AC)、宮原・伊藤・関根(横浜HC)、

クリーンハイク報告集を郵送(県のほうから礼状あり)

関東ブロック・全国大会出席者 高橋・大用

年末までの活動を検討

ボラネット丹沢の現状等DV届く 次回勉強会資料として活用

記録 関根

ハイキング委員会報告

9 / 6 葛葉沢山行

沢とはどんなところ、楽しさや、危険性を知り安全に登る。

昨年雨のため中止となった15期生の沢登りでした。葛葉の泉で装備を付けて点検し、自己紹介をして参加者の確認を行う。注意事項、準備運動をし出発する。天候不順な日が続いているので水量は多い。板立の滝ではザイルで確保して登る。少し登った5メートルぐらいの滝の中央部で転落があり心配したが打撲ですみ、後の行動もできた。昼過ぎには大平橋に着き昼食とする。午後は林道を下り、大倉ではビジターセンターで反省会を行い早めの帰路に着く。(加藤)

受講者7名 講師4名

9 / 17 机上

山行中のアクシデント、山での生活技術、テント泊の装備。

事故の後でもあり、山行中の病気、夏に起こった低体温症について、葛葉沢の説明を行いその後、テント泊の基本、準備、注意事項の説明を行い質問に答える。次にハケ岳山行の計画に入り、役割分担、装備計画、食料計画をみんなで話し合って決めていく、それぞれの担当者はどんなことを行なうのか説明を行い質問に答えて終了する。(加藤)

受講者5名 講師5名

9 / 26 - 27 ハケ岳山行「赤岳」

役割分担を行い各自が準備、手配をする。テント場でテントの張り方や生活技術を学ぶ。

テント場は混んでいましたが、小屋の横に張って、とても便利でした。初日は好天に恵まれ次の日もと思っていましたが、未明から雨となり出発予定の6時ごろには本降りとなり話し合って中止とし、下山することにしました。小降になってからテントを撤収し7時過ぎに行者小屋を後にしました。茅野では温泉に入り早めの帰路に着きました。(加藤)

受講者5名 講師4名

10 / 15 机上 ミーティング、11月の山行計画

終了山行を自分たちで計画し実行する。目的は何か、どこ山に行くのか、どのコースを登るのか、役割分担、安全対策などを話し合って決め、計画書を作る。箱根の明神ヶ岳、明星ヶ岳に決定。(加藤、清藤)

受講者5名 講師5名

10 / 18 世附・権現山 地図読み山行、コンパスで進路を確認する。地図で現在地を確認する。

周りの地形を読む、ポイント、尾根筋、谷筋、鉄塔、高度、湖など。

細川橋でバスを降り、今日の予定や注意事項の説明と準備運動を行い神社まで歩く。講師は先頭、中間、最後尾に付きコースを外さない様にする。権現山まではコースがはっきりしていて問題はないが、それからの降りは解りにくい、一つ一つ確認しながら進んでいく。急な下山路ではザイルを出して下りの練習をする。16時に下山し松田で反省会を行い帰路に着く(加藤)

受講者4名 講師5名

ハイキングリーグ学校 ハケ岳山行感想文

藤沢山の会 野口るり子

自分たちで設営する初めてのテント泊でした。フライ、折りたたみのポール等、耳では知っていましたが、設営していく中で平面的な知識が立体的になりました。

設営地の確保、整地、組み立て、経験ある仲間と共にアッと云う間に完成、すぐに夕食の準備、これ又、初めての食料担当、メニューはすぐに決まったが、食材の購入、カット、パッキングは10人分共なると結構悩まされた。しかし、調理は3人寄れば何とやら、アッと云う間に完了。高所での炊飯方法、ヘッドライトの使用法(夜中のテント場において)等、勉強した。楽しい食事もあり満点の星の下で、生徒4人はひとつテントの中で気持ち良く就寝、明日の赤岳登山に期待を膨らませながら。

しかし、翌朝は起床4時過ぎからポツポツと雨が降り始め、食事が終わる頃はドシャ降りに、講師の方々と生徒で相談の上、登山は断念。小降りになったところでテントを撤収、7時過ぎに後ろ髪を引かれながら下山。

ハケ岳山荘から美濃戸山荘を経て行者小屋までの登山は、読図をしながらハケ岳の圧倒した自然の美しさに見蕩れながら、そして行者小屋に近かずつれ、紅葉も赤岳の雄姿も眺められ、翌日の登山に期待が高まったのだが、残念!

高張るテント、調理器具、重いザイルを背負って登ってくれた講師の方々に感謝。楽しく山行してくれた仲間にも感謝。



2009年度ハイキングリーダー養成学校を終えて

2009.11.20 学校長 中山 建生

皆さんは今年の4月から11月までのほぼ8ヶ月にわたってハイキングリーダー養成学校での机上実習学習を終えようとしています。楽しい月日はあっという間に過ぎましたが何がいちばんの思い出になったのでしょうか。私たちはそれを聞くのが楽しみです。成果や教訓を次の人達に役立つようにしたいのです。学校での授業は終わりますが来年3月までいくつかのオプション企画が残っています。ですから皆さんともう少しお付き合いをすることになります。この学校で登山の知識を、技術を学び新しい体験をしながら同じハイキングをする人達との出会いから今日まで色々なことをも知ったと思います。時には実習で、思わぬ出来事に緊張して失敗したかもしれません。そんな体験でも物覚えは上手く行ったときより失敗したときのほうが心に残ります。がっかりしてしまっは力を出せませんが仲間に励まされてこれからも楽しい登山ができるように学んだことを実践してみましょう。

健康のために、仲間と一緒に山登りをするために、会の仕事や機関誌の発行に・・・それぞれに目標や目的があっ良いと思います。会は仲間たちの楽しい語らいや登山を実現する場です。しかし、ときに言い争いや行き違いから悲しい思いをすることもあります。仲間を失った経験のある会員は淋しいだけで

なく生きていることすら辛くなると言った人もいました。ひとりでは生きられないことを知っていてもついつい忘れてしまいわがままや勝手をするこもありま。それでも会の仲間と一緒に山登りができ、会の活動に参加するならきっと先が見えてくると思ひます。この学校で楽しかったこと、互いに励まされたことを思い出してください。

皆さんと一緒に学習を進めた講師とスタッフへの感謝の気持ちを、会の活動や連盟活動の中で応えていただけるならとてもうれしく思ひます。また皆さんの元気な顔を見ることで私たちが励まされます。私たちも仲間と山登りをし、例会に参加し、県連盟の人達との活動で生きる喜びを感じてきました。仲間とともにある事を大切にしてきました。山にひかれた皆さんはにこにこして家を出て元気に山を登り、帰りにとはときどき飲み会ではめを外し、またにこにこして家に帰り、一日の出来事を家族や友達に楽しかったと伝えてください。それが皆さんの大切な役目です。きっとみんなが元気になれるでしょう。皆さんと一緒に山登りをしたことを私たちも心に刻んでおきます。

講師・スタッフ

増田 徹 加藤正敏

清藤秀子 小林悦治

山崎明子 田村文康

渡辺三男ほか

講師スタッフを代表して 中山

10月事務局長会議の報告

10月13日19時～21時 県連盟事務所にて

- 内容 1 各会の山行報告及び活動報告
2 県連盟・全国連盟からの報告

出席会

川崎HC AC横浜 横浜HC 藤沢山の会
こぶし 相模AC やま++ みずなら山の会
柴笛クラブ

主な発言(報告)

川崎HCからは、10月14日に 大山 唐沢峠 不動尻のコースでクリーンハイクを行った。下山コースの唐沢峠までの間に 工事関係の大型ゴミ(さびたワイヤーロープや滑車等)や長靴、バッテリー、古い缶・ビンが辺り一面に大量に散らばっており、今回では清掃しきれなかった。今後、県連のクリーンハイク実施時に多くの人を入れて清掃する必要があるとの報告がありました。

AC横浜からの報告では、山行の回数は増えてい

るが会員教育が思うように取り組めない現状について、また相模ACからは新人向けの読図山行を実施したが参加者が2名しか集まらず、担当者が今後の会員教育問題に悩んでいるとの報告がなされました。

山++からは、例会時にプロジェクターを使用している山行の報告は好評を得ているとの報告やまた、川崎HCからは、朝日新聞に会の案内記事が掲載された後、入会申し込みの問い合わせがきているとの報告がありました。ともに視覚的資料の有効性やメディア情報の効果が話題となりました。

会運営上の話題では、多くの会で運営委員のなり手が少なく苦労していることが挙げられましたが、川崎HCでは、運営委員でも必ず毎回運営委員会に参加しなくてよいという対処をして工夫していることも参考になりました。その他 高齢会員の現状なども話題となりました。

報告 渡辺

平成21年度 関東ブロック自然保護交流集会報告

10月31日(土)～11月1日(日)山梨山の会主催で関東ブロック自然保護交流集会が、山梨県南アルプス市の「湧暇季の里 樹園」で7県一都32名の参加で開催されました。神奈川からは、県自然保護委員長の高橋勇三氏と副委員長の大用の2名が参加しました。

1日目10月31日(土)の講演会は「野生生物の生態と被害対策」について講師の山梨県環境科学研究所の研究者より、主に熊についての講演を聞きました。山梨県の熊の推定生息数は400頭位で昔は何処の里でも放し飼いにされていた犬や齧し鉄砲等の風景も無くなり、人間を恐れなくなった熊は8月～11月頃、山の食物が不作の年には特に多く熊が放棄果物(桃や柿等)を食べに出没して来る。熊の嗅覚は犬と同等に鋭く、目は悪く接近しないと気がつかず色の識別は黄色が少しわかる程度、聴力は弱く高い音は解るが足音には気がつきにくい、味覚は甘い物が大好きである。このような熊の特徴を知り人身被害を防ぐには、熊に出会わない事が一番、その為には

鈴を鳴らすか無ければ声などで音を出す。生息地の単独行を避ける。熊は人間を足止めをさせる為に勝ると予想してか1人では7割の確立で襲ってくるが、4人以上では0で熊の方が逃げて行く。

熊の餌場に近づかない(沢沿いや雪解けの早い草付の斜面、木の実が沢山在る場所、鹿等の動物の死体の近く等) 足跡や糞等熊の痕跡に注意し

熊には決して近づかない 廃果や放棄果実、生ゴミ等の管理をし、熊を誘引しない
それでも、熊に遭遇したらどうするか等、対処方の話もありました。

本来ならば、山に生息しているべき熊や猪、鹿等の大型動物が里に出没し作物や人身被害が身近になってしまった事に、自然環境破壊が一つの大きな原因で在る事に改めて考えさせられました。

後半は各県連からの自然保護活動報告、そして夕食時の交流会では山梨山の会による楽器演奏や歌のリードで楽しく交流を深めました。

2日目11月1日(日)山梨県森林総合研究所の長池氏の説明による 櫛形山に鹿の食害実態の現地調査に参加しました。田中澄江の碑のあるみはらし平までは車に便乗し、北尾根コースからアヤメ平に登りました。かつては、アヤメの群落で紫色に埋められたと言われるアヤメ平のアヤメは鹿柵の中に一株あるだけでした。地球の温暖化で冬が越せる鹿が増え茎から2cm位まで食べてしまい最近の5年位の間に全滅してしまったそうです。もう一つの群落地の裸山も同じく全滅でした。増えすぎた鹿の個体数を減らす為に登山途中で、狩猟の人達に会いましたが、増加し過ぎたから調整の為に捕殺するということは人間のご都合主義で、このような結果になったのも彼らを追い詰め生息環境を変えてしまった人間の活動にほかならないのでしょう。自然は人間だけのものではないのです。今回のテーマ「ヒト、動物、自然との共生を求めて」に参加でき、自然保護の重要性を身にしみて感じた2日間でした。

ありがとうございました 大用ユキ子

第21回全国海外登山集会のお知らせ

全国連盟・海外委員会

第21回・海外登山集会を下記により開催します。今年は、千葉県連盟が総力をあげて、歓迎の準備を進めています。

会場は、JR総武線・新検見川駅から徒歩10分、緑に囲まれた東京大学の検見川総合運動場です。遠方からの参加の皆様には、羽田空港・東京駅からも大変便利な会場です。大勢の皆様の参加を心よりお待ちしております。

記

- 1、開催日 2009年11月28日(土)13時より29日(日)12時まで
- 2、会場 東京大学 検見川総合運動場
- 3、記念講演 大蔵 喜福氏(マッキンリーでの気象観測・環境問題などで活躍中)
- 4、参加費 宿泊参加 8000円(懇親会込) 1日参加 1000円(資料代のみ)

5、アクセス JR総武線新検見川駅下車徒歩10分

東京駅(JR総武線快速) 津田沼・乗換え(JR総武線千葉行) 新検見川駅下車
羽田空港(京急本線) 品川・乗換え(JR総武線快速)
津田沼・乗換え (JR総武線千葉行) 新検見川駅下車

参加申込み(所属会・参加者名・電話番号・Eメールアドレスを記入願います)

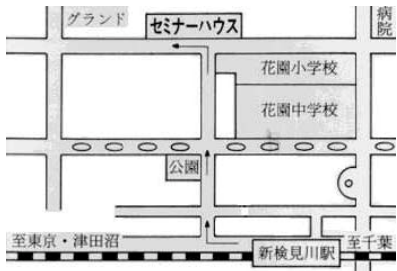
郵便: 162-0814

東京都新宿区新小川町5-24

日本勤労者山岳連盟・海外委員会/

FAX: 03-3235-4324 Eメール: jwaf@jwaf.jp

問合わせ先: 広木国昭[090-8316-2020]Eメール: danphiro@zpost.plala.or.jp



神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定

川崎勤労者山岳会

報告：小池 秀子 計43名(男27 女16) 平均 歳

10/3-5 涸沢-奥穂高-岳沢(1+2)	10/10-12 小川山(1+3)	10/24-25 奥秩父 南大菩薩・笹子-小金沢連嶺-小菅(2)
10/4 広沢寺(9)	10/11-12 小川山-金峰山(3)	10/24-25 谷川岳・一ノ倉沢 中央カンテ・幽ノ沢(2)
10/9-12 北アルプス北鎌尾根(5)	10/17 奥多摩-御岳山-日ノ出山(5+3)	
10/11 谷川岳(1)	10/18 湯河原幕岩(2+3)	
10/10-11 南アルプス小仙丈(4)	10/24 陣馬高原-高尾(2+2)	
10/10-11 南アルプス早川尾根		

川崎ハイキングクラブ

報告：二瓶 誠 計102名(男51 女51) 平均62歳

9/16 棒ノ折山/奥武蔵(6)	9/25-29 大山・蒜山/岡山(3)	10/11-12 鷹巣山/奥多摩(24) 予定
9/18-23 薬師岳 水晶岳/北アルプス(5)	9/26-27 赤岳/ハケ岳(3)	11/1 浅間嶺/奥多摩
9/18-23 仙塩尾根/南アルプス(4)	9/27 今倉山/道志(9)	11/1 鷹頭刈山 光明山
9/19-21 那須岳・安達太良(5)	9/27 雨降、権現/中央沿線(17)	11/7-8 四阿山/新潟
9/20 巾着田/奥武蔵(6)	9/28 金時山/箱根(4)	11/15 飯盛山/ハケ岳
9/20-22 飯豊連峰(2)	9/30-10/1 八海山/新潟(3)	11/18 ジダンゴ山/丹沢
9/21-23 笠ヶ岳/北アルプス(6)	10/1-4 月山、鳥海山/東北(8)	
9/22 高尾山(3)	10/2-3 芳ヶ平/滋賀高原(8)	
	10/4 大山~広沢寺/クニハイク(17)	

川崎柴笛クラブ

報告：雪竹雅士 計32名(男19 女13) 平均48歳

10/3-4 赤湯(1)	10/10-12 天狗岳~編笠岳(1)	10/17-19 下の廊下(1)
10/4 川乗山(1)	10/13 古里~川乗山~奥多摩駅(1)	10/17-18 鹿島槍(3)
10/4 大岳山-御岳山(1+1)	10/11-12 甲斐駒ヶ岳(1+1)	10/18 湯川(3+1)
10/7 御巢鷹の尾根(1)	10/12 箱根駒ヶ岳(1+1)	10/24 御岳山(3)
10/10 白砂山(1+1)	10/11 雁坂峠-甲武信ヶ岳(1)	10/24 越沢(6)
10/10-12 甲斐駒ヶ岳ダイヤモンドAフランク赤蜘蛛ルート(4)	10/12 日本山岳耐久レース(1)	10/27-29 明星山(1)
10/10-12 奥穂高岳(1)	10/16-17 下の廊下(1)	
	10/17 大倉尾根-塔の岳(1)	

アルパインクラブ横浜

報告 = 岸 直哉 計38名(男23 : 女15) 平均 歳

10/3-4 小蓮華岳(4+1)	10/11 小川山(2)	の廊下(日電歩道)(4)	の多い料理店(1+2)
10/3-4 北穂高岳東稜(2)	10/11 女峰山(1)	10/17 伊豆城山(6)	10/25 榛名山黒岩(2)
10/4 塔ノ岳(1)	10/11-12 奥多摩24耐久レース(1)	10/18 塔が岳(1)	10/26-27 宝剣岳(1)
10/4 斑尾高原(2)	10/11-12 小川山(2)	10/23 河又(1+1)	10/30 谷川岳・一ノ倉沢 衝立岩中央稜(1+1)
10/4 伊豆城山(1+1)	10/12 丹沢・大倉-蓑毛(1)	10/24 太刀岡山・左岩稜(1+1)	10/31 妙義山(1+1)
10/9 小川山(2)	10/12 日和田山(1+1)	10/24-25 谷川岳一ノ倉沢中央稜(2)	10/31-11/1 小川山(2)
10/10 湯河原幕岩(2)	10/12-13 黒部川沿い下	10/24-25 錫杖岳・注文	
10/11 瑞牆山十一面末端壁(1+1)			

横浜ハイキングクラブ

報告 = 池上準子 計58名(男21 : 女37) 平均62歳

10/3-6 上高地-横尾-涸沢-奥穂高	10/24 鶴ヶ屋鳥山	11/21 御前山
10/4-6 上高地-横尾-涸沢	10/30-11/1 石鎚山・四国	12/5 不老山
10/8 室内例会(中止)	11/1 湯坂道	12/12-13 忘年会
10/16-18 餓鬼岳-燕岳	11/7-8 大倉-丹沢-蛭ヶ岳	12/19 金時山
10/18 三頭山・都民の森-三頭山	11/12 室内例会	
10/24 丹沢ヨモギ平(読図山行)	11/14 西御荷鉾山-東御荷鉾山	

相模アルパインクラブ

報告：水村和也 計41名(男29 : 女12) 平均52歳

9/26-27 富士山(1)	10/3-5 後立山(1)	10/10-12 小川山(2)	10/17 大菩薩(2)
9/26 広沢寺(2)	10/10 景信山・陣場山(2)	10/10-12 谷川岳(1)	10/16-17 那須岳(2)
9/27 沖の源次郎沢(1)	10/11 城ヶ崎(2)	10/10-12 谷川岳(2)	10/16-18 甲斐駒ヶ岳(2)
10/4 広沢寺(1)	10/9-12 赤谷山(1)	10/9-12 白峰三山(2)	10/18 三つ峠(1)
10/4 幕岩(2)	10/11-12 奥多摩周回(1)	10/12 幕岩(2)	10/21 幕岩(5)
10/4 広沢寺(2)	10/9-12 池ノ平(1)	10/17 広沢寺(3)	10/24-25 小川山(6)

横浜こぶしの会

報告=田辺美由紀 計27名(男18人 女9人) 平均52歳

10/9-12 朝日連峰(3)	(中止)	雲取 未定	11/14-15 八ヶ岳(19)
10/11-12 雨飾山(5)	10/31 岩トレ・広沢寺(5)	11/7 明神(3)	11/28 川苔山 未定
10/25 長瀬・宝登山 9	10/31-11/1 三条の湯・	11/8 滝子山 未定	

藤沢山の会

報告=中河原昭夫 計82名(男39:女43) 平均62歳

10/13-16 東北・磐梯山、安達太良山、那須岳(2)	10/21 30周年実行委員会立ち上げ	11/14-15 村岡ふれあいまつりに参加
10/16 富士周辺・王岳(4)	10/27 丹沢・塔が岳(2)	11/17 丹沢・畦ヶ丸(会ハク)
10/17-18 三つ峠(教育部岩ト)(10)	10/28 例会(40)	11/21 奥秩父・西沢溪谷(会ハク)
10/21 二十六夜山(6)	10/31 南ア・山伏(20)	11/21-22 丹沢・新茅ノ沢、モミソ懸垂岩(沢の集い打ち上げ)
10/21 湘南・衣張山～能見堂緑地(5)	10/30-11/1 奥日光・高山(6)	11/29 丹沢・弘法山権現山
	11/7 いも煮会(泉の森)	
	11/14 上州・妙義山	

小田原ナーゲル山の会

報告=中島健一 計30名(男20:女10) 平均 歳

9/12-13 三つ峠岩トレ(1) リーダー学校	根山(2)	10/10 八つ・阿弥陀岳(1)	10/24 箱根刈り払い山行
9/12-13 奥秩父・ナメラ沢(4)会集中登山	9/21 甲武信岳(4)	10/11 鍬の峰(3)	10/31-11/1 乾徳山
9/13 雁坂峠ハイク(7)会集中登山	9/21-22 赤岳(1)	10/18 金時山クリーンハイク(27)会主催のクリーンハイク	10/22 運営委員会
9/19-23 剣岳チンネ(3)	9/26-27 錫杖岳前衛壁(1)	10/17-18 稲子岳南壁	11/11 読図講習会・例会
9/20-21 大朝日岳(3)	9/27 武尊山(2)	10/19 箱根湯坂路	11/15 読図山行・丹沢にて
9/21-22 武尊山・日光白	9/27 加入道山(1)	10/下旬 庚申山	11/26 運営委員会
	10/11-12 稲子岳南壁左カンテ(3)		
	10/10 信越トレイル(4)		

みずなら山の会

報告:阿部ひろみ 計31名(男21 女10) 平均 歳

10/17 奥多摩 読図(6)	10/30-11/1 西黒尾根～平標山(1+3)	11/3 広沢寺岩トレ(1+4)
10/17 甲府幕岩(2)	10/31 鷹取山セルフレスキュー(8)	11/6-7 天狗山～男山(2+1)
10/17-18 三つ峠(8)	10/31 蕎麦会懇親会(11+1)	11/7 丹沢主稜トレーニング(1)
10/23 鎌倉アルプス大平山トレラン(1)	11/1 鷹取山岩トレ(2)	11/7-8 県連救助隊セルフレスキュー訓練(8)
10/23-25 山犬段(4)	11/1 大倉～鍋割山トレーニング(4)	11/14 西丹沢 読図(7+2)
10/23-25 妙高 火打山(1+1)	11/3 鷹取山救助訓練(4+3)	11/15 西丹沢 セルフレスキュー(縦走用)(8+4)
10/24 陣馬山・高尾山(1+3)	11/3 毛無山(6)	11/22-23 立山山スキー(5)
10/24-25 大源太山(4)		

カモの会

報告:森谷準一 計64名(男42:女22) 平均35.8歳

10/3 尾瀬ヶ原(3)	10/11 ハセツネ 日本山岳耐久レース 24時間以内(1)	10/24 下ノ廊下(3)
10/3 黒斑山&籠ノ登山(1+1)	10/12 米山(1)	10/24 御坂ノ三ツ峠(5)
10/4 宮之浦岳(1+1)	10/17 長七郎山・地藏岳(1+1)	10/31 久住山(2)
10/7 未丈ヶ岳(1+1)	10/17 雨飾山(3)	10/31 赤岩岳正面岩綾(2)
10/10 奥秩父/瑞牆山(2)	10/17 稲子岳南壁左カンテ(2)	その他、個人山行記録多数あります。
10/10 八ヶ岳(2)	10/18 岩菅山(1+1)	ヤマレコでご確認下さい。
10/10 八甲田山(鶯の七沼)(3+1)	10/19 妙義山(1+1)	http://www.yamareco.com/
10/10 八甲田山(北八甲田)(3+1)	10/22 赤城山(2)	
10/10 男体山 白根山(4)		

雪重山の会

報告:小緑岳志 計18名(男13 女5) 平均44歳

10/3 つづら岩	10/17-18 甲府・幕岩	10/25 越後・金城山(滝入コース～水無コース)
10/3 御坂山塊(毛無山～十二ヶ岳)	10/17-18 丹沢(蛭ヶ岳南尾根～棚沢ノ頭～弁当沢ノ頭)	10/31 十二ヶ岳の岩場
10/4 小川山	10/18 伊豆・城ヶ崎	1031 湯河原・幕岩
10/4 湯河原・新崎川右股	10/19 湯河原・幕岩	
10/10-11 栗子山・滑谷沢	10/22 丹沢・広沢寺弁天岩	
10/11 湯河原・幕岩	10/24 二子山・中央稜	
10/15 丹沢・広沢寺弁天岩		

やま++

報告: 柴田 勇作 計11名(男8:女3)平均50歳

10/11-12 北ア・笠が岳(2)	岳(2)	赤石山(6)
10/10-12 上越・雨飾山~妙高山 ~火打山(2)	10/18 富士周辺・御岳山塊(3)	11/7 秩父・瑞牆山
10/11 北ア・燕岳(3)	10/24 丹沢・桧洞丸(1+1)	11/11 勉強会・天気図の見方
10/14 例会(8)	10/28 例会(8)	11/14-15 講習会・セルフレスキュー
10/15-16 東北・早池峰山、大東	10/31 丹沢 早戸大滝(2)	11/21-22 北関東・皇海山
	10/31-11/3 四国・伊予富士~東	

県連のスケジュール

11月		12月		2010年1月	
1 日	関東B自然保護集会(山梨) 第9回全国救助隊交流集会	1 火	常任理事会	1 金	
2 月	常任理事会	2 水	登山リーダー養成学校机上講習	2 土	
3 火		3 木		3 日	
4 水	登山リーダー養成学校机上講習	4 金		4 月	
5 木		5 土		5 火	常任理事会
6 金		6 日		6 水	登山リーダー養成学校机上講習
7 土	岩場のセルフレスキュー講習	7 月		7 木	
8 日	H Cリーダー学校実技講習 岩場のセルフレスキュー講習	8 火	事務局長会議/連盟news発行	8 金	
9 月		9 水		9 土	
10 火	事務局長会議/連盟news発行	10 木		10 日	
11 水		11 金		11 月	
12 木		12 土	登山リーダー養成学校実技講習	12 火	事務局長会議/連盟news発行
13 金		13 日	登山リーダー養成学校実技講習	13 水	
14 土	全国自然保護担当者会議	14 月		14 木	
15 日	全国自然保護担当者会議	15 火	全国理事会/救助隊運営会	15 金	
16 月		16 水		16 土	
17 火	全国理事会/救助隊定例会	17 木	事務局部会	17 日	
18 水	町田グlaus公開講座	18 金		18 月	
19 木	事務局部会	19 土		19 火	全国理事会
20 金	H Cリーダー学校修了式	20 日		20 水	
21 土		21 月		21 木	事務局部会
22 日		22 火		22 金	
23 月		23 水		23 土	登山リーダー養成学校実技講習
24 火		24 木		24 日	登山リーダー養成学校実技講習
25 水		25 金		25 月	自然保護委員会
26 木		26 土		26 火	
27 金		27 日		27 水	
28 土	第21回全国海外登山集会	28 月	自然保護委員会	28 木	
29 日	第21回全国海外登山集会	29 火		29 金	
30 月	自然保護委員会	30 水		30 土	
		31 木		31 日	

2009年度以降の全国的な規模の集会・会議予定

全国自然保護担当者会議	11月14日~15日 (長野・信濃大町)
町田グlaus公開講座	11月18日(水) (まちだ中央公民館)
第21回全国海外登山集会	11月 28・29日 (千葉県検見川総合運動場)
第11回東日本女性登山交流集会	2010年1月23日~24日 (東京・高尾の森)
第29回全国総会	2010年2月20日~21日 東京・晴海G H
第24回雪崩事故を防ぐための講習会	2010年2月12日~14日 (中ア・宝剣岳、黒姫山)